

第20話 インド宮廷料理

インドでは食事はほとんどホテルのレストランでとっていましたがその中でもマウリア・シェラトンにあるインド宮廷料理の店、ダンプクはデリーでも最も優雅なレストランでした。

このシェラトンにはブカラという有名なタンドリー専門店もあります。クリントン大統領がインドを訪れた時はここに泊まったのですが、娘のチェルシーさんがいたくブカラを気にいったそうでその時注文したものがチェルシーメニューという名前で出ていました。

ブカラがタンドリーならダンプクはビリアーニという炊き込みご飯のようなものが有名でした。店側はマトン・ビリアーニが一番と進めていました。インド人はヒンドゥー教の関係で牛は食べませんしイスラム系の方は豚がだめです。従ってチキンとマトンを多く扱いますが料理法は洗練され日本で食べるマトンとはかなり違います。古典楽器の生演奏を聴きながらゆっくりと食事をしてるとしばし日本のあわただしさを忘れず。

ところで気になるお値段の方ですが1人5~6千円くらいです。何だ、たいしたことないと思われるでしょうが、アルワリアが住んでいたアパートの家賃が5千円と言っていたから比較が出来ると思います。これが観光客が多い町のレストランになると一人1500円くらいです。そして普段アルワリア達が食べているところでは50円もしないと思います。

この町のレストランにアルワリア達と初めて行った時、店員が『お前達の来るとこじゃない』という顔をしたのですが僕達と一緒にだとわかると黙って通してくれました。その後何回も行くとその空気もなくなり、アルワリア達もすっかりくつろぐようになりましたがこれもカーストの残りか厳しいものがあります。しかし食事が終わったら「今夜はすばらしい夕飯をいただき弟をはじめ皆はとてもハッピーで本当に有難うございました。」と彼が挨拶をした時はこんな言葉があるとは思っていませんでした。彼らのこうした礼儀正しさを見ていると宗教が人々の生活に深く根ざし生活倫理の面でも大きな影響を与えているのがよくわかります。

もっとも翌日会ったら、何も言わないので本当は料理が不満だったのかと少し心配したのですが、日本人みたいに『イヤー昨日はご馳走さまでした』と何度もお礼を繰り返すことはしないようです。あらためて日本はかなり込み入った気遣いを必要とする人間関係で成り立っているんだと思いました。

